

法律事務所へ就職

4年前の2月、私はまだ就職先が決まっていなかった。
まだ就職氷河期と言われる前にもかかわらず…。

法律事務所職員

高橋 瞳

最後のチャンス

私が学生時代に考えていた将来の夢は法律事務の仕事か教師になることだった。教職の方は3週間にわたる教育実習で教える事の難しさを痛感し、既に挫折していた。しかし、法律事務所の募集は経験者を求めており、新卒の私にとって狭き門であった。友人達は次々と内定が決まり、ますます落ち込んだ。学童保育のアルバイトを卒業後も続けようと思った矢先、今の事務所で新卒募集があるのを知り、応募要件の作文を一晚で書き上げ履歴書と共に送った。まさに最後のチャンスだった。後になって聞いた話だが、この時代に手書きで、しかも作文用紙で送付してきたのは私だけだったそうだ。

就職したのはいいけれど…

無事に就職することは出来たが、社会経験がないことに弁護士も当時の先輩事務員も驚いたそうだ。その時の私は銀行振込の方法もわからないような世間知らずだった。事務所は現在、弁護士1人、事務員1人の小さな事務所だ。仕事は受付、電話対応、事務手続、裁判所等への外回り、会計管理、その他にも事務所内の掃除、買物など諸々の雑務がある。先輩の退職後、これらの仕事を1人ではこなさきれず何度も辞めようと思った。

それでも根気よく指導して下さった弁護士にも頭が下がる。仕事以外にも社会人としての心得など随分と教えて頂いた。

孤独にならないために

小さな事務所の事務員は時に孤独になりやすい。そこで、色々な研修会に積極的に参加した。弁護士会主催の研修会に参加し、そこで知った労働組合の主催する研修会へも参加した。これに参加したことで友人も出来た。今でも色々な研修会に参加し、多くの人と知り合うきっかけを作っている。また困った時には図々しくも研修会の講師をされた方に直接電話をして質問したりしている。

幸いにも、弁護士の同期の事務所の事務員の方々とも交流があり、公私共に仲良くしている。このような相談できる人は大切にしたい。

今後の自分への課題と目標

少人数の事務所の良い所は、仕事の流れが理解できる所だ。しかし、依頼者も案件も常に同じものばかりではないので日々学習である。

4月で5年目となるが、まだまだ「新米」だ。昨年挑戦した事務職員能力認定試験も自分の能力を知る為にも今年も挑戦したい。

また、常に心がけていることは、依頼者への対応である。法律事務所へ相談に来る方の話題は決して明るくはない。最初に対応する事務員の態度で事務所の印象が決まる。誠実で明るい態度がいかに大切かを痛感している。そのような小さな事の1つ1つも私の仕事だと考えている。今後も努力を怠らず、弁護士のサポートをしていきたいと思う。